

30代後半までを従来は支援対象として考えていなかった。従来の枠を抜け出す柔軟な発想が必要である。

	◆既存支援事業についての広報啓発の充実・強化について◆	◆相談体制等についての充実・強化◆	◆既存支援事業について◆	◆コミュニケーションについて◆
現状への対応策について	<p>公共施設にパンフレットなどを設置しても、若者は大人・行政・社会とあまり関わりたくないなど、特有の心理があり手にされないのでないか。</p> <p>従来の対象者へ直接情報を届ける以外の方法も必要ではないか。</p> <p>若者へダイレクトに情報が届かなくても、保護者や周囲の人に届いていけば、周囲の人から若者へ届いていくのではないか。</p> <p>20代や30代の一人世帯が多い新宿で、家族への支援に力点を置くのではなく、本人をターゲットとすべきである。他人と繋がりたいと思っている人もいるはずである。</p>	<p>顔の見えないネット活用は効果があるか疑問である。文字だけで心のコミュニケーションが図れるか。</p> <p>携帯電話など飛躍的に進化するなかで、「Face to Face」と言っていると取り残されてしまうのではないか。</p> <p>相談を受けていると「匿名だから話せる」「知らない人だから本当のことを言える」といった場合もあれば、「顔が見えないから話づらい」「面と向かってでないと話せない」という場面もある。</p>	<p>様々な支援は必要だが、優先順位も付けざるを得ない。調査において、就労についての困りごとが上位になっていること、若者の社会参加の観点からも就労支援に力を入れるべきである。</p> <p>職業紹介だけでは、不足である。コミュニケーションスキルや社会的スキルを身に付ける必要があると言われる若者に、紹介した後のフォローも大切ではないか。</p> <p>フォローする支援機関はあるが、そこに「つなぐ」必要があるのではないか。</p> <p>既存事業についても、若者応援講座のコミュニケーション能力アップ講座と地域企業就業支援事業を合わせるなど、連携により効果があがるのではないか。</p>	<p>今の若者のコミュニケーション能力の向上をどうするか。支援を行っている場所はあるが、そこに行かない若者を、いかに支援の場と結びつけるか。</p> <p>人とコミュニケーションを持たなくても、生きていけてしまう時代である。望んでもいない支援メニューを提供しても受け入れられないのではないか。</p>
予防的な対応策について	<p>既存のパンフレットやリーフレットは、ちょっと一人になった時に手にしやすいと感じた。一人になる場所として、図書館に置いてあるといいと思った。</p> <p>インターネットにアクセスできない若者もいるであろうし、ネットだけに依存しない情報提供も必要ではないか。</p>			<p>20代や30代になって、突然、人とコミュニケーションが取れなくなった訳ではないのではないか。小さい頃から、「無駄話」でもいいから、自分のことを話す機会を作って育てる必要があるのではないか。</p> <p>一人っ子が増え、共働きの保護者も増えている。家の中で、子どもが一人で過ごす状況が増えているのではないか。子どもは、もっと話したがっている。</p>